

低温要求量の少ないスターチス品種素材の育成

和歌山県農業試験場暖地園芸センター 育種部 主任研究員 岡本崇

本県スターチスは全国1位の出荷量(シェア率54%)を誇り、県内花き産出額第1位の33%を占めている。暖地園芸センターでは、産地の様々な課題を解決するため県オリジナル品種として、12品種を今までに育成してきた。しかし、スターチスは(オリジナル品種も含め)抽苔に低温が必要とされることから、培養時(低温処理)と育苗時(クーラー育苗)の低温管理で抽苔を早めることが必須となり、スターチス生産の高コスト化の要因となっている。そこで、これらの低温管理が不要な低温要求量が少ない系統の選抜法を開発するとともに、この方法により品種素材を育成した。

○低温要求量が少ない系統の選抜法の開発

✓従来の品種育成法に組み込み

✓育成の初期から多段階(①~③)で選抜

<選抜フロー>



○選抜フローにより育成された系統



表 育苗温度条件(選抜③)による収量の比較

系統・品種名	育苗温度	切り花本数(本/株)			
		10~12月	1~3月	合計	
16B1	なりゆき	12.1	6.3	18.4	差1.6本
	クーラー	8.8	8.0	16.8	
16B2	なりゆき	13.0	8.8	21.8	差4.8本
	クーラー	15.6	11.0	26.6	
16B3	なりゆき	18.3	8.6	26.9	差1.5本
	クーラー	15.5	9.9	25.4	

対照早生品種

紀州ファインラベンダー

注)2018年9月3日定植、冬季最低気温1℃で管理

調査期間:2018年10月22日~2019年3月12日、切り花長40cm以上の切り花を調査

差の少ない系統を選抜

育成された系統は
新品種育成のため、種子親として交配に活用

現在、「17P18」等から採種した系統からピンク系新品種の育成に取り組んでいます。また、「低温要求量」とともに抽苔に影響する「高温」への耐性をもつ品種についても研究を行っています。